ボランティアスピリットの継承のために

水難救済思想の普及活動レポート

佐賀県水難救済会による伊万里市立大坪小学校での「海の安全教室」の模様

海の安全教室

平成13年度から平成28年度までは全国の小中学校等で児童・生徒を対象に「若者の水難救済ボランティア教室」を開催し、講師の海上保安官やライフセーバーの皆さんから海での事故を防ぐための知識のほか、万一、自分や友達等が海で遭難した時に助かる術と安全に助ける術を実地に手ほどきを受けていましたが、平成29年度からは、指導内容を若干見直したうえで名称を「海の安全教室」に改め、受講対象者も子供たちだけでなく、教師や保護者をはじめ、地元一般市民にまで拡大し、引き続き全国各地で展開しています。

愛知県水難救済会

夏季レジャーシーズンに向けて

平成29年7月31日午前、名古屋市立吹上小学校において、愛知県水難救済会職員の他、名古屋海上保安部職員を講師にお招きし、同小学校6年生40名を対象に「海の安全教室」を開催しました。

教室では、海辺で遊ぶ時の注意事項、ペットボトルを利用した浮力の確保、救命胴衣の浮力体験等を行い、自己救命策を学びました。

救命胴衣着用体験

愛知県水難救済会職員による講習

特定非営利活動法人 長崎県水難救済会

イベントに合わせ海の安全教室を開催

平成29年7月30日、長崎県大村市馬場先ボートパークで行われた海遊び伝習塾において、大村市周辺の小中学生とその保護者約100名が参加し、「海の安全教室」を開催しました。

教室では佐世保海上保安部職員を講師にお招きし、長崎県水難救済会職員とともに参加者に対して「水の事故を避けるためにはどうしたらよいか」を学びました。

その後、佐世保海上保安部巡視艇「むらかぜ」の船内見学や水上バイクの試乗体験を行い、皆さん興味津々で楽しそうでした。

海上保安官からの説明

水上バイクの試乗体験

高知県水難救済会

身近な物を利用した溺者救助法等を学ぶ

平成29年9月9日午前、高知市立長浜小学校において、高知海上保安部職員3名を講師にお招きし、同小学校1～5年生22名、保護者10名、教職員6名が参加し、「海の安全教室」を開催しました。

教室では、自己救命策確保に関する説明をはじめ、身近なものを活用した救助法等を学び、ライフジャケットの着用体験も行いました。

参加した児童からは「ペットボトルだけですごく浮いたのでびっくりした。」などの感想が聞こえてきました。

ライフジャケット着用体験

ペットボトル等による浮力確保体験

佐賀県水難救済会

着衣泳指導員による海の安全教室を実施

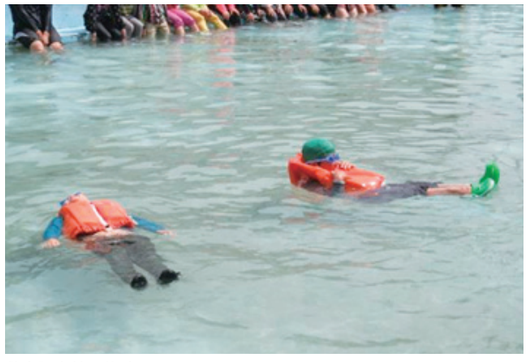
平成29年7月14日、伊万里市立大坪小学校において、佐賀ん着衣泳会の着衣泳指導員2名、伊万里･有田消防組合職員8名及び唐津海上保安部職員3名を講師にお招きし、全校生徒545名が参加しました。

また、平成29年7月19日午前には、佐賀県有田町立大山小学校において、佐賀ん着衣泳会着衣泳指導員4名、伊万里･有田消防組合職員3名及び唐津海上保安部職員2名を講師にお招きし、4～6年生115名が参加し、「海の安全教室」を開催しました。

両教室では、プールにおいて衣類や靴などが浮き具として活用できることや、背浮き等を体験してもらい、万一事故が発生した場合、自ら水に入っての救助ではなく、安全な場所から浮き具を提供し、周りに助けを呼ぶことなどを学びました。

伊万里市立大坪小学校

背浮き体験



救命胴衣着用体験

教室で使用する救命用具

救命胴衣

ペットボトル

有田町立大山小学校

海の安全教室開始前の説明

救命胴衣着用体験

救命胴衣着用体験

マリンレスキューレポート Part 1 救難所NEWS

海難救助訓練ほか

平成29年度は、現在までに全国の地方水難救済会において延べ95の救難所・支所から1,947名の救難所員が参加して実地訓練などが行われました。

熊本県水難救済会による富岡救難所員による実地訓練の模様

■熊本県水難救済会

富岡港において海難救助訓練を実施

平成29年9月3日、熊本県天草郡苓北町富岡港において、熊本県水難救済会富岡救難所員実地訓練を行いました。

訓練は同救難所員37名が参加して救命索発射器の取扱い訓練、火災船舶救助訓練、陸上からの救出訓練等が行われました。火災船舶救助訓練では救助船に小型動力ポンプを積載して消火活動を行うとともに、救助船でゴムボートを曳航、火災想定船に接近し、乗組員を救助、陸上まで搬送しました。また、陸上からの救出訓練では、浮輪やペットボトルを使用して陸上の安全な場所まで引き揚げる訓練を行いました。

火災船舶消火救助訓練

火災想定船から負傷者を救助

陸上からの救助訓練

■特定非営利活動法人 長崎県水難救済会

7救難所が集合して長崎地区沿岸海難救助訓練を実施

平成29年10月14日午後、長崎サンセットマリーナ内公共岸壁及びその前面海域において、長崎海上保安部職員のご指導のもと、長崎県水難救済会の稲佐、三重、小菅、川原、毛井首、野母崎、ヤマハマリン西九州の7救難所が参加して長崎地区沿岸海難救助訓練が行われました。

訓練項目は、もやい銃操法講習、応急手当法講習、漂流者揚収訓練、火災船消火訓練及び曳航訓練であり、大変充実した内容でした。

漂流者揚収訓練

小型船曳航訓練

漂流者救助に使用する救命浮環

九十九島湾で佐世保地区沿岸海難救助訓練を実施

平成29年9月24日、九十九島湾オジカ瀬周辺海域において、佐世保海上保安部職員のご指導のもと、長崎県水難救済会稲佐救難所の他、佐世保地区小型船安全協会、99レスキューレンジャー、九州磯釣連盟佐世保地区局等が参加して、海中転落者救助訓練、カヤック救助訓練、近距離もやい銃発射訓練等、佐世保地区沿岸海難救助訓練が行われました。

近距離もやい銃発射訓練では、長崎県水難救済会救助船「旭龍」から遭難船役の佐世保海上保安部巡視艇「むらかぜ」を目標に救難所員が近距離もやい銃を発射させ、見事に「むらかぜ」に救助索を渡すことができました。

巡視艇「むらかぜ」に向けて、もやい銃を発射

見事に救命索を想定船に

■京都府水難救済会

平成29年度舞鶴総合防災訓練に参加

平成29年10月14日午前、防災関係機関同士の連携をさらに強固なものとし、市民の防災意識高揚を図り、減災につなげることを目的として、大規模地震の発生を想定し、海上自衛隊、陸上自衛隊、舞鶴海上保安部、京都府舞鶴警察署など市内等に所在する各防災関係機関及び地域住民が一体となった平成29年度舞鶴総合防災訓練が行われ、京都府水難救済会舞鶴救難所が参加しました。

この訓練は海上自衛隊舞鶴教育隊をメイン会場として次のような想定の下に広域防災活動拠点運用訓練、現地調整所運用訓練、ヘリコプターによる被害状況調査訓練、倒壊家屋および事故車両救出訓練、洋上漂流者救出訓練、避難住民健康調査訓練、初期消火訓練（水消火器、バケツリレー）、救急訓練、一斉放水訓練などが行われました。

〔想定〕

大規模地震（若狭湾内断層M7.2）が発生し、舞鶴市では震度6強を観測、津波警報が発表され、この地震により市内各所で建物の崩壊、同時多発火災、土砂災害、道路の寸断が発生、外海沿岸部では津波が襲来した。さらには、一部集落が孤立するなど、市内全域にわたり甚大な被害が発生し、住民は避難する一方で初期消火、応急救護活動を実施している。舞鶴市は市役所に災害対策本部を設置。京都府を通じ、自衛隊など防災関係機関に出動を要請し、災害応急対策活動を開始した。

また、田井地区では津波避難訓練が行われ、小橋・三浜地区では「地震により道路が寸断され孤立した住民がいる。」との想定により、舞鶴救難所所属の救助船により孤立住民を救助、沖合に待機していた海上自衛隊の掃海艇「すがしま」まで搬送する海路避難訓練が実施されました。

なお、当日、啓発・展示防災関係機関の車両や資機材、防災啓発の展示、起震車や煙避難体験コーナーも設けられました。

救助船による孤立住民搬送訓練の模様

孤立住民を沖合いの海上自衛隊掃海艇「すがしま」へ移送

■和歌山県水難救済会

田辺港において実施された田辺市防災訓練に参加

平成29年9月3日、和歌山県田辺漁港沖合い等において、平成29年度田辺市防災訓練が行われ、田辺海上保安部や田辺市等の防災関係機関等とともに和歌山県水難救済会紀南西部救難所が参加しました。

訓練は、南海トラフ巨大地震などの大規模災害に備え、関係機関の連絡体制の確立を図り、迅速かつ円滑な救助活動を行うための連携訓練を実施することにより、防災体制の充実強化及び防災意識の向上を図ることを目的として、「南海トラフを震源とするマグニチュード9.1の海溝型巨大地震が発生し、田辺市内で震度7の揺れを観測するとともに、和歌山県沿岸部に大津波警報が発表されました。また、台風接近に伴う大雨により各地で洪水、土砂災害が発生するおそれがある。」との想定で行われ、紀南西部救難所所属の救助船4隻は漁業無線による非常通信訓練、沖合避難訓練や巡視船と連携した漁流者救助、搬送訓練が行われました。

漂流者救助訓練の様子（上・下）

水難救助等活動報告

平成29年度下半期に報告のあった、
主な水難救助活動の事例を報告します。

① 転覆したミニボートの乗組員を救助

公益社団法人 琉球水難救済会
金武救難所

平成29年8月8日午後0時頃、沖縄本島のほぼ中央にある国頭郡金武町伊芸の沖合で釣をするためアンカーを投入した際に、予期せぬ波を受けてミニボート（ゴムボート）が浸水・転覆し、救命胴衣を着用して投げ出された2名は、転覆船に掴まりながら漂流中、そのうち1名が持っていた防水型携帯電話により118番にて通報を行い、この通報を受けた中城海上保安部は直ちに金武救難所に対し、「金武伊芸海浜公園沖合に転覆ボートがあり、2名が救助を求めている」との出動要請を行いました。

救命胴衣を着用し漂流中の2名を救助船が救助
（第十一管区海上保安本部那覇基地ヘリ撮影）

午後0時20分頃、金武救難所から救助要請を受けた付近海域で漁労中の金武救難所所属の救助船「瑞希丸」（総トン数1．13トン）船長は直ちに漁を中止し救助に向い、捜索を行っていたところ、第十一管区海上保安本部那覇基地所属のヘリコプターが2名の遭難者を発見、ヘリコプターに誘導された救助船「瑞希丸」が転覆したボートに掴まっていた2名に浮輪を投げて無事船内に引き揚げ救助したのち、捜索を行っていた消防ゴムボートに引き渡すとともに、その後、船体を浜田漁港まで曳航し、無事救助を完了しました。

なお、遭難者2名（うち1名は12歳の少年）の海難救助に関し、迅速かつ的確な救助活動であったとして、中城海上保安部長から感謝状が贈られました。

② うつ伏せで漂流している男性を発見・救助

千葉県水難救済会 富津岬PW救難所

平成29年7月22日午後4時25分頃、富津公園沖合いで、うつ伏せて浮いている者を富津岬PW救難所所属の救難所員が発見し、直ちに泳いで救助に向かい、確認したところ、顔面蒼白で意識が無い状態でした。このため、浜に居た他の救難所員等に協力を依頼するとともに、119番通報及び118番通報を行いました。

その後、同人を救助員が一致協力し、浜に引き揚げたが、脈はあるが呼吸がないことから心肺蘇生措置を開始したところ大量の海水を吐き出し、自発呼吸を再開し、駆けつけた消防救急隊に引継ぎ救助を完了しました。

救助後に引継いだ消防救急隊の様子

③ 座礁・浸水したミニボートを救助

千葉県水難救済会 富津岬PW救難所

平成29年8月26日午後4時13分頃、東京湾富津岬から約1，500メートル沖合の第一海堡南側の岩場に乗揚げ、後部右舷側より波により海水が浸入しているミニボート(2馬力)を付近海上にて見回り中の富津岬PW救難所所属の救助船(PWC)が発見、状況を確認するとエンジントラブルにより動けなくなったもので、発泡スチロール箱で海水を排出していましたが、このままであると危険なことから同ミニボートに乗っていた男性1名を島に上げて救助するとともに、他の救助員に応援を依頼し、その後、ミニボートを岩場から引き降ろして付近の安全な砂場まで曳航、海水を排水したのち、組立て式のボートであったことから曳航できるようにした後、富津岬まで曳航し、駆けつけた海上保安庁の職員に引継ぎ、救助を完了しました。

ミニボートを安全な砂場まで曳航して組み立て直し作業中

乗揚げたミニボートを発見

④ 衝突転覆海難に対応

佐賀県水難救済会 玄海下地区救難所

平成29年7月23日午前5時30分頃、唐津市所在の東松浦半島最北端の波戸岬から約9km西に位置する馬渡島付近の漁場に向かって航行中の漁船と漂泊して遊漁中のプレジャーボートが衝突し、プレジャーボートが転覆して乗船していた5名が海に投げ出されました。

午前5時42分頃、海難発生の118番通報を受けた唐津海上保安部からの出動要請を受け、佐賀県水難救済会玄海下地区救難所所属救助船「金比羅丸」が午前6時、救助員6名を乗船させ出動、同午前6時30分に現場に到着しましたが、全員、転覆船乗組員は衝突した漁船により救助されていたため、転覆したプレジャーボートを外津漁港まで曳航救助しました。

なお、救助された者の内1名が骨折、他の者も全員が打撲等の怪我をしていました。

転覆船の曳航準備作業中の救助船

転覆船を曳航する救助船

⑤ 乗揚げ船を無事救助

和歌山県水難救済会　紀中救難所

平成29年7月26日午前11時30分頃、定係港の簑島漁港向け帰港中の漁船（長さ8．13メートル）が和歌山県有田市所在の宮崎の鼻灯台から西方約1海里付近において機関停止し、漂流し始め、復旧作業を試みるも北西の風が強く、午後0時頃、岩礁に乗揚げたため、同僚の救助員に携帯電話で、救助要請を行いました。

この通報を受けた救助員は、他の救助員2名の協力を得て、紀中救難所所属救助船「早紀丸」（1．9トン）及び「金比羅丸」（7．9トン）に乗船し出動。現場到着した後、直ちに救助船から救難所員が泳いで乗揚船にたどり着いて、曳航索を取り付た後、乗り上げた船を金比羅丸で引き降ろし、簑島漁港まで曳航し、救助完了しました。

⑥ 転覆し投げ出された2名を迅速に救助

公益社団法人 琉球水難救済会 宝島救難所

平成29年6月11日午前11時27分頃、「野底ビーチ沖でプレジャーボートが転覆し、現在、同ボートの船底に、乗員2名が乗っている状態である。」との通報を受けた石垣海上保安部は石垣市消防本部に情報提供を行いました。情報提供を受けた石垣市消防本部は宝島救難所に情報の提供及び救助の協力依頼を行いました。

協力依頼を受けた宝島救難所長は、直ちに救助船（水上バイク）を出動させ、現場海域において転覆船の上で救助を待っていた2名を水上バイクに揚収、船越漁港まで搬送し救助しました。

なお、2名は、釣を終え、帰港するためアンカーを引き揚げている最中に波を受け転覆、海に投げ出され、船底に這い上がって118番通報で救助を求めたもので2名ともケガもなく病院への搬送も必要がありませんでした。

⑦ 推進器障害、漂流船を発見救助

公益社団法人 北海道海難防止・水難救済センター 石狩救難所

平成29年9月10日午後4時頃、石狩川河口沖合でプレジャーボートが定置網のロープにプロペラを絡ませ航行不能となり漂流していると通報を受けた小樽海上保安部から石狩救難所に出動要請があり、救助船「第七十八石狩丸」に救助員3名が乗りこみ出動、捜索を実施したところ、同漂流船を発見、曳航して同日午後6時50分頃、石狩湾新港に無事入港しました。

⑧ 岩場から滑落した釣人を救助

特定非営利活動法人 神奈川県水難救済会 小田原救難所

平成29年9月2日午前11時頃、小田原市所在の根府川海岸沖100～200メートル沖合の岩場から滑落し海で溺れている男性（釣り人）がいるとの救助要請が湘南海上保安署及び小田原消防署からありました。

この救助要請を受けた小田原救難所長は、所属の救助船「坂口丸」（19トン）に所属の救助員2名を乗船させ、直ちに出動して現場到着しましたが、現場は岩場に加え台風15号の影響で波が高く救助船での接近は困難であったことから救命浮環を遠投するなど救助を試みた結果、同人を岩場から移動させることができ、引き続き、飛来した横浜消防局のヘリによって同人は無事吊上げ救助されました。

⑨ 暗夜の中捜索中、発見救助

特定非営利活動法人 長崎県水難救済会 稲佐救難所

平成29年7月22日午後8時30分頃、長崎市所在の伊王島灯台から西北西約1．4海里の海上で遊漁中のプレジャーボート（1．46トン、1名乗組み）からエンジンが起動しなくなったと稲佐救難所長に対して、携帯電話にて救助依頼がありました。

通報を受けた長崎県水難救済会稲佐救難所長は直ちに帰港中の救助船「真喜丸」（2．8トン）を現場に向かわせ、暗夜の中、直ちに捜索を開始したところ、伊王島南西沖で同船を発見、曳航を開始、小榊港に入港し無事救助しました。

なお、プレジャーボートは燃料系統の不具合によりエンジンが停止、航行不能となっていたものです。

⑩ 救命筏で避難の6名を救助

宮崎県水難救済会 日南市漁業協同組合救難所

平成29年6月22日午前4時30分頃、奄美大島西方で漁船が横倒しの半沈没状態になっているのを遭難通報の無線を傍受し、付近を捜索していた宮崎県水難救済会日南市漁業協同組合救難所所属の救助船「徳慎丸」（19トン）が発見し、無線により油津漁業無線局に通報を行うとともに、付近に乗組員が見当たらないことから、捜索を継続し、同日午前5時20分頃、漂流中の救命筏を発見、乗っていた乗組員6名全員を救助しました。

なお、救助された乗組員6名は全員怪我等も無く無事でした。

新設救難所の紹介

海難救助の拠点となる、新たな救難所が新設されています。今回は、平成29年7月から12月末までに設置された2か所の救難所をご紹介します。なお、紹介文は地方水難救済会からご提供いただきました。

宮城県水難救済会

◆寄磯救難所

◉平成29年10月1日設立　◉所長以下17名
◉所在地　宮城県石巻市寄磯浜前浜28−4
宮城県漁業協同組合寄磯前網支所

寄磯救難所は宮城県牡鹿半島東部に位置し、霊験あらたかな金華山が望まれ、世界三大漁場のひとつである金華山漁場が近くにあります。好漁場に恵まれたこの地域では、いかつり漁などの漁船漁業やホヤ・ホタテなどの養殖漁業が盛んに営まれています。十数年前、タコ漁の漁船転覆事故により尊い生命が失われました。このため救難所の設置を検討していましたが、東日本大震災によりその計画実施が一時中断されていました。本地域も甚大な被害を受けましたが、全国の皆さまから温かいご支援をいただき、震災復旧が日々進捗し、以前の浜の姿を取り戻しつつあります。

寄磯救難所の皆さん

このような中、海での悲劇を防ごうと救難所設置を急務とし、多くの皆さまや関係機関のご協力によりこの度完成することができました。

海は我々に豊かな恵みを与えてくれますが、その一方で脅威と化し深い悲しみをもたらすこともあります。海と共に生きる者にとって危険は隣合わせです。

救難所の設置により漁業者をはじめレジャーを楽しむ人達の危機への対応と「海で身を守る心構え」を浸透させ、海における命を守る役割を担ってまいりたいと思っております。

◆石巻湾救難所

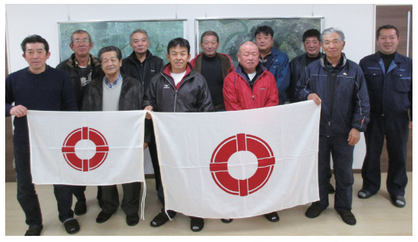
◉平成29年11月1日設立　◉所長以下10名
◉所在地　宮城県石巻市塩富町1−1−3
宮城県漁業協同組合石巻湾支所

石巻湾救難所は三陸リアス式海岸南端にある「万石浦」湾口部に位置しています。万石浦は、古くは“奥の海”と言われ、新古今和歌集でも枕歌として詠まれた景勝地です。また、食生活ジャーナリスト・岸朝子さんの実父で世界のかき王と呼ばれた宮城新昌氏が、かきの養殖技術を確立させた地としても知られ、現在では全国一のかき採苗生産量を誇る「かきの郷」として親しまれています。

当救難所の設置については、3．11の東日本大震災がきっかけとなったのは言うまでもありません。以前からさまざまな救難活動に携わってきたものの、この未曾有の災害により多くの尊い命が目の前で奪われ、命の大切さ、そして命を救う大切さを深く痛感させられました。本来ならすぐにでも救難所を設置すべきでしたが、状況が許さずこのたびの設置となりました。

これからは研修・訓練等を経て、近隣の救難所や関係機関と連携を図りながら救難所としての機能そして責務を果たしていきます。震災により一旦は影を落とした漁業もあと少しで震災前の姿に戻り、船舶の往来が頻度を増すとともに、近隣の海水浴場の再開や防災マリーナの整備なども進み、漁業・レジャー等さまざまな形で海と接する機会が増えていきます。

このような中、できる限り我々が出動することのないよう、まずは関係機関と協力、事故の未然防止を図り、安全策を啓蒙しながら救難所の役目を果たして参ります。


石巻湾救難所の皆さん

宮城県石巻市は、東日本大震災で最も甚大な被害を受けた地域であり、石巻漁港を擁する市中心部（人口11万人余り）の高台を除くほぼ全域が津波被害に襲われました。今後、地域の早期復旧・復興とともに新設された宮城県水難救済会寄磯救難所、石巻湾救難所等のご活躍をお祈りいたします。